

第 33 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

第 8 回社会教育委員会議	
開催日時	令和元年 10 月 7 日（月） 午後 2 時～午後 5 時
会 場	クロスパルにいがた 4 階 403 講座室
出席者	<p>【社会教育委員】 伊比 宗宏、岡 昌子、小川 崇、角野 仁美、雲尾 周、笹川 博人、杉山 節子、 田中 宏和、山田 久美子 計 9 名 * 敬称略</p> <p>【事務局】 地域教育推進課長、中央公民館長、中央図書館館長補佐、生涯学習センター所長、生涯学習センター所長補佐 生涯学習センター職員 3 名 計 8 名</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 生涯学習センター所長あいさつ</p> <p>3 報告事項 (1) 第 62 回全国社会教育研究大会新潟大会 分科会及び協賛金について ○報告資料 1 に基づき、事務局が第 62 回全国社会教育研究大会新潟大会の分科会と協賛金について説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ・全国大会の新潟開催は初めてか。 ⇒約 50 年ぶりである。 ・新潟市内にはライオンズクラブが結構ある。協賛金リストの中にないが、県単位の組織が三条市にあるので、依頼してみてもどうか。</p> <p>4 協議事項 (1) 第 33 期社会教育委員会議建議の草案について ○協議事項の前に、第 46 回市政世論調査（令和元年度）の速報値について、事務局から説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ・「学校支援や青少年育成に関わる活動」のセーフティスタッフという言葉は今も使われているか。 ⇒子ども見守り隊になっている。「社会活動への関わりについて」は平成 20 年に行った生涯学習市民意識調査の結果との経年の変化が分かるように平成 20 年と同じ内容の表現で実施した。 ○協議資料 1 に基づき、第 33 期新潟市社会教育委員会議建議草案の第 1 章について事務局が説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ・2022 年からコミュニティ・スクールが全市展開になるため、この建議の中に、生涯学習におけるコミュニティ・スクールのあり方とか方向性が入り、それを踏まえた内容になるのがいいのではないか。 ⇒コミュニティ・スクールだけではなく、学習指導要領は、社会に開かれた教育課程ということで、地域の方々が自分たちの学びを教育課程の中に展開していくということや、コミュニティ・スクールの地域学校協働活動の中で地域の方々が学びを活用していくといった内容になると思うが、教育ビジョンの中でどうするかは不明なところがあるため、今後相談させていただきたい。</p>

内 容	<p>○協議資料 2 に基づき、第 2 章について雲尾議長が説明を行いました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提言をしても、予算によって現実には政策が狭められている。老人クラブ数もほかのサークル数も減っていき、地域活動もどんどん弱まるような気がする。</li> <li>⇒市の予算もかなり見直しが行われている。限られた予算の中で工夫しながらいいものを作っていかねばならなく、提言により、もう少し違うところを考えてみましょうとなると思う。行政でやらなければならない部分と、市民の方がやらなければならない部分があり、そういう視点から提言いただきたい。予算が厳しいから全くできないというより、どうやったらいいかというアイデアやヒントをいただけるとありがたい。</li> </ul> <p>○協議資料 3-1 に基づき、第 3 章について、「世代を超えた学びの継承と創造」グループが説明を行いました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問や意見はありませんでした。</li> </ul> <p>○協議資料 3-2 に基づき、第 3 章について、「いろいろな世代の学びの充実と展開」グループが説明を行いました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問や意見はありませんでした。</li> </ul> <p>5 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「世代を越えた学びの継承と創造による次世代育成」グループ発表             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いろいろな世代」のグループと重複が多いため、事業概要、事業内容や取組みについては、事務局に共通で資料を基に前段を作成していただくとうい。後は個々にそれぞれがいろいろな視点で提言をする。</li> </ul> </li> <li>○「いろいろな世代の学びの充実と展開による次世代育成」グループ発表             <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例のまとめ方について、学童期や思春期や青年期という、それぞれの世代の学びの充実と展開について、より具体的な記述が必要で、「活動に見える次世代育成」について各世代の学びの充実、継続性、将来性という観点からまとめ直すことになった。YAKKOTEの事例であれば青年期、子ども食堂であれば大学生、コミュニティコーディネーターであれば高校生、そしてAkihiraきらきらプロジェクトであれば子育て世代という形でまとめる。この中に高齢期についての事例がないが、これについては第 2 章の後段に記述があり、高齢期の学びの充実については、自ら学んできたことを提供する場を増やすということである。若い世代のニーズを把握し、高齢期の世代とつなぐコーディネーターは、図書館や公民館などの社会教育施設がその役割を担うべきであるが、コーディネーターする職員がいるのかという大きな課題が挙げられた。</li> </ul> </li> </ul> <p>6 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 9 回会議は 12 月 18 日（水）、第 10 回会議は 1 月 29 日（水）の予定とする。</li> <li>・新潟市小中学校 P T A 連合会との懇談会の開催について             <ul style="list-style-type: none"> <li>第 32 期新潟市社会教育委員会議建議の中で、地域づくりを進めていくに当たり、学校や家庭、地域の連携、協働を考えるうえで、今後ますます P T A が果たす役割が大きく、P T A 卒業後の活動継続の仕組みづくりも有用であるという提言をいただいている。この提言を具体的に施策に反映させていくために、社会教育委員の皆さまと P T A 連合会の役員の方々とで、現在の P T A を取り巻く環境、</li> </ul> </li> </ul>
-----	--

第 33 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

<p>内 容</p>	<p>実態について意見交換する機会を設けさせていただきたい。具体的には、次回の 11 月 11 日の小委員会の後か、12 月 18 日の第 9 回会議の終了後に 1 時間程度を予定し、決定後に事務局から正式にご案内する。</p> <p>7 閉会</p>
<p>傍聴者</p>	<p>0 名</p>
<p>会議資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 33 期新潟市社会教育委員会議（第 8 回）次第</li> <li>・ 報告資料 1 第 62 回全国社会教育研究大会新潟大会 分科会及び協賛金について</li> <li>・ 協議資料 1 第 33 期新潟市社会教育委員会議 建議 第 1 章</li> <li>・ 協議資料 2 第 2 章 社会教育に期待される役割について</li> <li>・ 協議資料 3-1 本市の社会教育による次世代育成について～事例研究に見る「世代を超えた学びの継承と創造」～</li> <li>・ 協議資料 3-2 本市の社会教育による次世代育成について～事例研究に見る「いろいろな世代の学びの充実と展開」～</li> <li>・ 参考資料 1 社会教育による次世代育成について</li> <li>・ 参考資料 2 第 33 期社会教育委員会議建議の構成について（案）</li> <li>・ 参考資料 3 第 33 期新潟市社会教育委員会議 建議策定スケジュール</li> </ul>